

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-------------------|-----|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 地域密着型の事業所としての理念はつくってある。しかし理念の共有と実践は？と問われるとまだまだだと思う。(入居定員の半数以上は地元の方の入居ではある) | 法人の理念があり、その理念を基に5項目からなるホームの理念を職員で考え作り出した。わかりやすい文言で事務所にも掲示があり、職員は十分理解しており毎日のケアの中に反映している。それぞれのユニットの玄関にも貼られており外部の方々にも示している。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 近所の床屋さんへこちらから出掛け散髪している。花火大会、マジックショー等行事の時も声掛けさせていただいている。しかし拡大の余地はまだ有ると思う。 | 掃除、お祭り等の地区の行事に参加をしている。ホームで開催するボランティアによる「コーラス」・「マジックショー」、「花火大会」等に地域の方々をお誘いしている。地区主催の市役所支所で行われる作品展やバザーにも出展している。夏休みの間高校生のボランティアの受け入れもしている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 推進委員の人数を増員(近隣の方3名)し、理解をいただこうと努力している。しかし地域貢献、発信できているかとなると、これからの事だと考えている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 職員は運営推進会議をしている事は知っている。代表の者が別の場所で会議をしており、詳細については毎回報告しているとはいえない。次回より報告しサービス向上に活かしたいと思う。 | 奇数月の第3金曜日、2ヶ月に1回開催している。家族会代表、区長、区民生児童委員、市職員、地域包括支援センター職員、近隣の住民等、幅広い分野からの委員で構成されている。活動報告や計画などを議題とし委員の方々の意見・提案を頂いている。委員の方々からも貴重な発言があり、開設から1年のホームの運営に役立っている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 認定調査の際には担当者へ、暮らしぶりやADLの状況などを伝え理解いただく様努めている。他の方面に関しては管理者に一任している。 | 市から派遣される「あんしん相談員」の受け入れが毎月行われている。義務的なものではなく相談員の方と入居者・ホーム職員との心通える関係が築かれつつある。市職員が認定調査などでホームに訪れた折には積極的に会話することを心がけている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束については、あってはならないものと理解はしている。しかし開所～現在に至るまで玄関の施錠はしている。(道路、線路が近くにある為) | 職員は身体拘束をしないケアについて正しく理解している。ホームのすぐ近くにJRの線路があり危険が考えられるので家族了解のもと玄関の施錠はしている。居室の鍵はしていない。ふらつきや転倒の危険のある方の居室には鈴を付けるなど工夫し安全面に配慮している。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 内部研修はしていないが、資料は事務所にあり、いつでも閲覧できるようになっている。管理者より言葉の虐待(暴力)というものも含め注意するよう喚起された事もあり、個々で注意している | | |

グループホームコスモスあもり・しなのユニット

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 制度を知っている者、知らない者がいる。職員会議、内部研修の題材とする必要がある。成年後見人制度を使っている入居者はいるので、活用はできている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約時に管理者、相談員が多方面に渡り説明を行っている。又随時疑問、不安な点が発生した時には、職員が聞き取り、管理者より説明を行い、理解、納得をしていただいている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 利用者本人及び家族より、いつでも意見、要望を伺う体制は取れている。その立場、目線でくみ取る様心掛けている。意思要望は申し送り、スタッフ会議、ケアプラン等で反映させている。 | 「グループホーム生活記録」を毎月家族のもとへ送っている。1ヶ月の日々の生活記録に加え担当職員の言葉を添え入居者の現況を伝えている。また家族会が設けられており、年二回家族の集まる機会が計画されている。意見箱も玄関先に設置されている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 定例の職員会議の他にも、日常的に意見、提案を聞いてはいる。しかし全てにおいて聞き入れる、実践、反映するという事は難しい。 | 月に1回、原則第1水曜日午前中に定例会を開き、日々の業務の改善、入居者のカンファレンス、勉強会などを行っている。研修参加者が他の職員への伝達研修などをし、研修内容の共有化にも努めている。職員間の縦、横の関係は良好である。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 職員の自己評価の中で「余裕が無く、向上心が持てない」と記述有り。何が原因かを聞き取り追求し、改善の手段を探さなくてはと考える。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 代表で研修を受けた者が職場に戻り内部研修をして実施している。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | グループホーム間のネットワークとして善光寺ネットに入会している。2ヶ月に1度交流、勉強会を行っている。 | | |

グループホームコスモスあもり・しなのユニット

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 事前面接では通所、入院先などを主体に訪問、ご本人や職員、ケアマネより聞き取りに重点を置かせていただいた。不安や心配事があれば、入居前に出来る限り解決するように努めた。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 初期に限らず、在宅でも不安、悩み、要望等があれば伺う姿勢でいる。入居前からの家族関係から面会も少ない方には毎月手紙を送る事で状態の報告をしている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | ご本人やご家族よりの話の中、又入居生活を始めた中で個々に必要なケア、支援方法を考え、周知を行い、対応した。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 「ご苦労さんありがとう」と頻繁に励まし、お礼を言っていたいいる。風習や郷土食作り(おやき)を教えていただく場面もあり、中には一方通行かもという方もいる。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 面会、外出は現在は可能な限り受け入れている。日頃の生活ぶりは毎月の手紙の送付や来訪時に伝えるようにしている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 美容院へ継続して行かれる方がおられる。又、家族、親族、知人等の面会は多く、関係が途切れることなく支援できている。 | 家族は元より昔の職場の同僚、サークルの友人、自宅近所の方等が来訪している。ホームのある地元地区出身の入居者が半数以上を占めており、必要なものを自宅にとりにいったり近所を散歩している時などに知人と出会うこともある。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 波長の合う、合わないはどうしてもある。他者との接触を好きな方もいる。いい関係を築けている方達もあり様々だが、孤立する事の無い様可能な限り職員が声掛けを行っている。 | | |

グループホームコスモスあもり・しなのユニット

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 入居1カ月で癌の末期である事が判明し、間もなく他界された方がいた。管理者が家人と連絡を密に取っており、家人の相談、フォローに努めた。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 言えない方の場合は職員同士で話し合い本人本位(目線)で検討、把握しようと努めている。毎日思いや希望が変わる事もある。だが可能な限り、耳を傾ける事はしている。 | 概ね意思表示を出来る方が多く、職員が会話の中から思いなどを把握している。入居者の生活歴を尊重しケアに活かしており、開設よりの良好な関係作りにより当初のアセスメント意外の入居者の特徴が少しずつ判ることもある。入浴介助などで一対一の関わりを持つ時、入居者から直接的あるいは間接的に注意を受ける場面もある。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入所前、ご家族へセンター方式の用紙への記入を依頼している。生活歴を知るツールの1つとして有効であった。現在はご本人との会話、家族との話の中でも聞くことができ、全てではないが把握できつつある。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 生活のリズムは当然ながら全員が違うがご本人自身で生活の成立する方、そうでない方の把握から残存能力はどこまで在るのかを職員全員で周知できるよう、記録、申し送り等を欠かさず行っている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 担当職員を決め、更に深い関わりの中で本人、家族らとの話の場を多く持ってもらう様にしている。担当者からの意見、アイデアを聞く事が多いが、チームとしてのモニタリング、ケアプラン作りはしていない。 | 入居者の担当制をとり各職員が1~2人を受け持ち、各ユニットの計画作成者と話し合いながら作成している。見直しの期間も定め行っている。家族へはプラン作成時の電話や面会等で内容を伝え、了承を得ている。担当以外の入居者のケアプランに関しても個々の計画内容を職員一人ひとりが把握している。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 個別にファイルがある。昼夜の生活ぶり、ケアの実施内容等を記入しており、申し送りや記録を見る事で情報の共有をしている。ケアプランの見直しに活かしている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | Dr指示による協力HPへの送迎やクリニックへの送迎は行っている。家人との連絡はとれている。協力得ることもある | | |

グループホームコスモスあもり・しなのユニット

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 同地区の在宅の事業所のケアマネとのつながりを持ち、共存できるようにしている。推進会議には包括支援センターの代表者の出席、助言をいただいている。近所の理髪店を利用。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 同法人の医師が週1回往診。他科受診に関しては家族が同行。困難な場合は管理者が代行。 | 家族の希望で入居前のかかりつけ医よりホームの協力医療機関へと変更している。毎週医師の往診があり、家族にとっては安心の材料となっている。歯科についても協力歯科医がおり家族の付き添いで受診をしている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 日々の様子は報告しており、又管理者自ら現場にも入っており、適切な看護を受けられる体制である。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院が必要な際には、本人に関する情報を速やかに提供し、病院スタッフ、家族との情報交換、定期的な見舞っている。昨年1名病院に搬送したが、癌のターミナルにより他界されたこともあったが、管理者は連絡を常に取っていた。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 契約の段階で重度化、終末期に対する指針は書面にてお渡しして説明。 | 開設間もないためホームでの直接の看取りはまだない。「利用者の状態が重度化した場合における対応についての同意書」があり、「重度化した場合における対応に係る指針」が示されている。入居者、入居者家族、医師、管理者協議の上で個々の対応をしていく方針である。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 職員会議において研修報告や管理者より説明を聞く機会があった。しかし全員が実践力をつけるには繰り返し、定期的な学習会が必要である。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 地元消防署の協力のもと、年2回避難訓練をおこなっている。訓練時の地域の協力体制は3回実施中。まだ無いがご近所より有事の際にはウチの店舗に避難してほしいとお話をいただいている。 | 年二回入居者、職員参加で防災・通報訓練が消防署指導のもと行われており、そのうちの一回は夜間を想定し実施されている。ホームには消火器・スプリンクラー・火災報知器が設置されている。地区の消防・災害訓練に参加している。 | |

グループホームコスモスあもり・しなのユニット

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 人生の先輩であり、敬意を払っているつもりだが、馴れ合いの中で声掛けの時には思わずさくばらんになる事がある。守秘義務についての理解、実行、書類の管理は行っている。 | 呼び方は、苗字に「さん」づけで呼び、同じ姓の方のみ名前で呼んでいる。目上の方に接する対応が自然とされている。「入居様の心に寄り添い、想いに共感する」との理念通り、入居者の行動を第一と考える職員の姿を垣間見ることができた。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 自己決定できる方はいる。それに対しては希望に沿い支援している。出来ない方には「どれにしますか？」が言えずに「これでいいですか？」「どっちにしますか？」になってしまう。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 当ユニットは高齢な方が多いので、比較的ゆっくりペースで生活されている。行事や入浴など職員都合のペースで声掛け、実践する事もしばしばある。個別対応、希望に沿っては現状難しい。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 長髪の女性は整髪介助(束ねる)。男性にはヒゲ剃りしていただき、剃り残しは介助。毎朝洗顔介助。本人の馴染みの美容院でパーマ、カットをしてくる方もいる。赤ら顔を気にされ、クリームファンデーションを使用している方もいる。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 毎日、毎食は難しいが、食材、料理の内容によっては一緒に準備していただいている。同じテーブルで利用者と職員と一緒に食事をしている。どんなものが好きか、食べたいかを聞き献立に反映している。 | 毎日の食事作りに入居者の方々が参加されている。調理の手助けや後かたづけのお手伝いなど、出来る力を発揮してもらうことで入居者の喜びへと変えている。食事中は自由に会話をしながら職員と一緒に食べている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 盛り付ける量を個々に変える、水分が足りないと思われる人には助言、摂取量の測定を行っている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 自分で行えている方にも磨き残しがありそうなので、最後の所では磨きなおし(仕上げ磨き)を行っている。歯科医師より誤嚥性肺炎の予防の話の間接的に聞いたことから始めた。 | | |

グループホームコスモスあもり・しなのユニット

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄チェック表で、排泄パターンの把握。誘導する方、片麻痺の方の介助等個々に合わせた支援をしている。失禁しても不快感がないよう「濡れていない」と言い切る方もいる。 | 自立の方やリハビリパンツ・パット使用の方など個々の対応をしている。夜間のみポータブルを使用する入居者が若干名いる。支援が必要な方には排泄チェック表により時間を見計らい、呼びかけ、誘導をしている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 排泄チェック(量、形状)、記録している。朝の牛乳、日中のヨーグルトの摂取、野菜、繊維質の摂取や水分補給にも配慮している。ラジオ体操、歩行も促している。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 強い入浴拒否の方はおらず、入浴が楽しみという方がほとんどである。個浴にて個々のサービスが出来、プライバシーの保護もできている。時間、曜日は指定したものになっている。米糖袋は好評である。 | 最低1週間に二回の入浴をしている。 市販の入浴剤等は使用せず、米糠袋など入居者にとって懐かしい自然素材を使用している。 長く入浴をしたいという方への対応など、入居者からの希望は尊重している。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 夜間眠剤内服されている方はなし。不眠の方もなし。日中もご本人本位で居室で休まれる方は多い。温度、湿度の変化により空調、寝具の調整を行い安眠の支援をしている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 処方箋のコピーをケース毎に整理し、職員は内容を把握できる体制でいる。服薬時は誤薬のないように本人の前で復唱しながら飲み込み確認まで行っている。副作用に関しては理解不足である。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 手芸が得意な方への材料提供をしている。蒔の筋取り。利用者の経験や知恵に助けられる場面もあり、楽しみごとの提案、準備、フォローは継続したい。しかし、それが全員毎日というわけではない。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 昨年夏～今年3月まで感染症の関係で制限があった。ここ最近はお花見、善光寺参り等予定を組んだ外出を行っている。希望に沿った個別外出支援は今のところ出来ていない。 | 行事的な外出は法人本部の車を借りて定期的に行われている。善光寺参り、茶臼山へのお花見めぐりなどドライブを兼ねての外出は入居者に喜ばれている。 | 地域での中での短時間の散歩や近所のスーパーへの買い物に同行するなど、車椅子使用の入居者も含め、可能な限り外の空気に触れまた日常的な地域の方々とふれあいの場出来ることを期待したい。 |

グループホームコスモスあもり・しなのユニット

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 個人でお金の所持は今のところしていない。家族よりお金を預かり希望があり、今必要であるという時には職員が買い物代行をしている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 家人より電話がきて、本人に代わってほしいと言われれば、取次をしている。その時には周囲を気にしない様に居室に移動していただき、ゆっくりお話していただくよう配慮している。手紙も届いた物はご本人にお渡ししている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 段差は無いので、安全性は保たれている、トイレ掃除は毎日行っているが、便器に便の付着があればその都度洗浄。温度、湿度は常に気にしており、不快感のない空調管理を行っている。ひな人形、五月人形を飾り季節感を感じていただいている。 | ユニットの玄関は別々にあるが、建物内部では廊下で繋がっていて、入居者が自由に行き来している。平屋造りであるのでリビング兼食堂も南向きで明るく、塗り絵作品の掲示や行事の飾り付けがされている。南面にはベランダが設けられており、接して菜園もあり、入居者の手で夏野菜が育てられている。長野の冬の名物、えびす講の花火もリビングから一望でき入居者の楽しみとなっている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 食堂内は限られた面積の中にあり、今でも人の行き来すら狭さを感じており、居場所作りは難しい。廊下に2人～3人位が休めるソファ、長イスを置きたいと思ったが、やはり狭いのでそのままになっている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | アルバムや仏壇、使い慣れた椅子、ぬいぐるみを入居時より持ってこられ、自分の部屋となっている。 | テレビ、筆筒、椅子など各入居者のそれぞれの気に入ったものが持込まれている。手作業による飾り物や折り紙なども飾られている。居室にはエアコンが設置されており、職員の手により時間・温度の調整が行われている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 左麻痺で車イスの利用者には、左麻痺用のトイレ使用。目に見えたハード面での環境作りだけでなく、すり足気味の方に杖を持つよう声掛け、フラつき気味の方には必ず付き添う等行い、ソフト面での対応工夫している。 | | |